

【評価実施概要】

事業所番号	2771200538		
法人名	有限会社 シルバーケア		
事業所名	グループホーム 春日苑 田尻		
所在地	大阪府泉南郡田尻町吉見384番地 (電話) 072-465-2011		
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん		
所在地	岸和田市三田町1797		
訪問調査日	平成21年12月14日	評価確定日	平成22年1月20日

【情報提供票より】 (平成21年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18名
職員数	17名	常勤12名, 非常勤5名, 常勤換算13.4名	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(無し) 円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(無し) 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	1名	要介護2	7名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.4歳	最低	73歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	熊取ファミリークリニック、泉南西出病院、浜西歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム春日苑田尻」は南海本線吉見ノ里駅から徒歩約5分の所にあり、周辺はのどかな田園風景が広がり、ゆったりとした敷地に平屋建ての二つのユニットが並んで建っている。共有空間である居間兼食堂は天井が高く、大きな窓から陽光が差し込み、家庭的な雰囲気が漂っている。二つのユニットの間にはウッドデッキがあり、屋外でゆったりと休憩したり、バーベキューを楽しんだりしている。管理者、職員共に利用者とのコミュニケーションを大事にしている。田尻町の唯一のグループホームとしての役割も担っている。さらに、職場環境の改善にも取り組み有給休暇をとりやすくするなど、ゆとりをもって毎日の業務に当たっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で指摘のあった課題に対して、内部研修の記録の充実、外部研修として大阪府社会福祉協議会や大阪府認知症高齢者グループホーム協議会などへの参加、内部研修として勉強会や会議などを実施している。今後は年間研修計画の作成を期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全体で改善に取り組んでいる。職員同士で報告を行い、意見を交換し、徳島の本部からもアドバイスを受けて改善している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 3ヶ月に1回運営推進会議を開催し、会議には地区委員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者代表、管理者、ユニットリーダー2名が出席している。会議では新型インフルエンザ、認知症の対応など講師を招いた研修や、介護職員と医療行為、外部評価結果、消防訓練などについて意見交換を行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 1ヶ月に1回家族との面接があり、支援経過や行事写真を用いて日頃の生活状況などを報告している。2ヶ月に1回ホーム便り「わかば」を発行し家族に行事予定や職員の紹介や、利用者の様子を報告している。年に1回家族会を開催し職員などと一緒に楽しむとともに、家族と個別面談を行い利用者の様子の報告や家族からの苦情・意見を聴取し、書面に記録し今後の運営に反映するよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所開設後5年目となり、地区会に加入し地域との繋がりも強くなってきている。秋祭りには地元の櫓を事業所内まで曳き入れて頂いて、参加する利用者も年々増え、利用者手作りのたこ焼きを振舞ったり、一緒に写真を撮ったりするなど交流を図っている。また、地域の一員として地元の朝市に出かけたり、公民館祭りや地域の運動会にも見学者として参加している。

2 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「プライバシーを守り一人ひとりを尊重しましょう」「利用者の立場に常に身をおいて考えましょう」「家庭的な環境づくりを心がけましょう」「地域との交流を図りましょう」を理念とし、利用者とのコミュニケーションを通じて信頼関係の構築に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示するとともに、全体会議や勉強会、業務会議を通じて話し合い、職員に理念を周知徹底している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋祭りには地元の櫓を事業所まで曳き入れていただき、利用者の参加も年々増え、利用者手作りのたこ焼きを振舞ったり、一緒に写真を撮ったりするなど交流を図っている。地区会に加入し、地域の一員として地元の朝市に出かけたり、公民館祭や地域の運動会にも見学者として参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価受審に際して、全職員で自己評価に取り組み、評価結果についても検討し、改善に取り組んでいる。また、昨年度の評価結果は運営推進会議で報告し、参加者間で意見交換を行い、共通認識を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回運営推進会議を開催し、議事録を作成している。会議には地区委員・民生委員・地域包括支援センター職員・家族代表・利用者代表・管理者・ユニットリーダー2名が出席し、新型インフルエンザ・認知症への対応・介護職と医療行為・外部評価結果などについて活発な意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは常時インターネットのメールを介して福祉情報や研修の案内などの情報をいただいている。地域ケア会議、地域包括支援センター会議に参加し、行政との意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1回家族との面接があり、支援経過や行事写真を用いて生活状況などを報告すると共に、金銭出納帳と領収書をコピーして金銭管理状況を報告している。2ヶ月に1回ホーム便り「わかば」を発行し、家族の方々に行事予定や職員の紹介、利用者の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会（今年は利用者16名、家族29名、職員13名計58名が参加）を開催し、恒例のバーベキューを楽しんだ後、家族の方々と担当職員が個別面接を行い、利用者の日頃の様子を報告している。家族からの意見・苦情を積極的に聴取し、書面に記録し、今後の運営に反映できるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑えるために、日勤帯の職員数を増加して有給休暇を取得し易くしたり、休憩時間の確実な確保（45分）をしたり、全体会議で意見を発言しやすい環境づくりなどに取り組んでいる。また、職員の離職があった場合でも日頃から利用者との全職員との交流が活発に行われており、利用者への影響は極力少なくなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会や研修会を通じて職員のレベルアップを目指しており、新たな資格の取得や更に上位の資格取得にも配慮している。認知症など外部研修受講後の報告は朝礼時や会議等で全職員に伝え、外・内部研修について研修記録を保管している。しかし、年間研修計画は作成していない。	○	過去の研修実績を参考に年間の研修計画の作成に取り組むことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域でのグループホームは当事業所のみで、大阪府認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、情報収集や各種研修に取り組んでいる。また、大阪府社会福祉協議会の老人施設部会からの送られてくる情報など活用してサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	随時見学を受け入れており、事業所の内容を利用者、家族の方に説明し十分納得していただいて利用に繋げている。また、3ヶ月に1回開催する運営推進会議の委員の方々を通じて、地域の方々に事業所の活動内容の理解を深めていただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者・家族のコミュニケーションや言葉遣いに配慮しながら信頼関係をつくり、共に事業所での過ごし支えあう関係作りを構築している。また、利用者一人ひとりの特技や趣味（生花・民謡など）を活かしながら力量の発揮できる場面作りに心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者本人や家族の希望を聴取し、記録している。また、年に1回の家族会や日々のコミュニケーションの中で利用者の思いや意向を聴取し記録して、日々のサービスの質の向上に取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりのファイルにはアセスメントシート、ケアチェック表、介護計画表、担当者会議録、支援経過記録などを保存している。家族にはカンファレンスへの出席を促している。職員の意見をまとめ利用者の暮らしを反映した介護計画を作成している。介護計画を利用者、家族に説明し署名、捺印を得ている		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しとともに、利用者本人や家族の要望、状態の変化に応じて随時見直しを行い、その都度サービス担当者会議を開き、その人らしく暮らしていくための現状に即した新たな介護計画を作成している。利用者の情報は職員間で共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて通院時の送迎や個別の外出支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の多くは協力医療機関で受診しているが、古くからのかかりつけ医で継続的に受診されている利用者には、通院介助を行っている。薬の変更や病状の変化などが見られた時には家族と連絡を密にしている。薬は鍵のある保管庫で管理をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化について、医師を交え利用者・家族と終末期には希望を聞き話し合い、同意書を作成している。事業所としては、マニュアルに沿ってその時点の状況に応じて医師や他の機関と連携をとり、対応の共有をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員が利用者への対応や言葉使いに配慮している。新入職員には個人情報に関する就業規則遵守の研修を行っている。利用者には入居時の面接で入浴、排泄の同性介助などの希望を聞き取りしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、ケアしている。本人の意向を尊重し、喫茶店でコーヒーを楽しむための支援や訪問理容を取り入れたり、毎朝その日の衣服を一緒に選んだりするなど柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の能力に応じて食事の調理、配膳、食材の買出しなどを職員と一緒にやっている。食材の調達には地元の朝市に出かけたり、外食は月1回程度全員で出かけてる。時には夕食をバイキング形式で楽しんだりしている。みんなで楽しく食事が出る様に配慮している。</p>		
23	57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日は週3回午前と設定しているが、希望者や入浴拒否の利用者にはいつでも状況に応じて対応している。歩行が不安定な利用者が多くなってきており、浴槽内に入る時はボード・タウンテーブルなどで介助することを予定している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個別性を大事にしながら、希望する利用者には生花、民謡クラブなど習い事をして楽しんでいたり、能力に応じて食事作りや買い物、ドライブ、外食、近所の散歩、夏祭り、運動会、クリスマス会などの楽しみごとを支援している。</p>		
25	61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>運動や気分転換を兼ねて、天候の良い時には全員で散歩に出かけている。個別対応としてドライブや外食、弁当持参で屋外に出かけている。今年の行事では大阪の海遊館に全員で外出し、利用者は喜んだり、怖がったりで楽しいひと時を過ごした。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠していない。ユニット間は廊下で繋がっており、利用者は行き来している。入居の初期に帰宅願望の強い利用者に対して、職員が安全に見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防火避難訓練を実施し、移動には車椅子やシーツを使った体験をしている。非常口や誘導灯も設置し、消火器は1ユニットに2個設置している。町の防災会議に参加、協力を依頼し連絡はとれている。最近の町主催の防災訓練でAEDの救命訓練を受けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が交代でバランスを考えて作成している。食事と水分摂取量を毎日チェックしそれに基づいて支援をしている。水分量は1,000~1,300mlを目標にしている。		
#VALUE! (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂はゆったりとした広さに、陽光がよく差し込み、一人ひとりが好みの椅子や畳の間で過ごしている。玄関や居室には季節の花が飾っている。ホールの天井は高く天窓もあり、圧迫感がない。広い廊下にはクリスマスツリーの飾りがある。2つのユニットの間にはウッドデッキがあり、居心地良く過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室と洋室があり、利用者の希望により選択できる。居室には自宅で使い慣れた家具や布団、電化製品などを持ち込み、安心して暮らせるよう家族の写真など壁に貼っている。ロッカーや押入れは整理され、居心地よく暮らせるよう、支援している。		

※ は、重点項目。